

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉農業高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和3年5月11日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切に知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>1. 基礎・基本の定着と学力の向上 2. 基本的生活習慣の確立 3. 地域連携と特色ある教育活動 4. 進路意識の向上と進路保障 5. コミュニケーション能力の向上 6. 業務改善の取組</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>1. 昨年度県版SPH事業として実施していた事業を独自事業として引き継ぎ、充実させる。特に長期インターンシップ、就農促進事業、大学との連携、資格取得等の充実を図る。</p> <p>2. 2年次インターンシップを通して早期に進路意識を持たせ、進路意識の高揚を図る。</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>1. スーパー農林水産業士の3名以上の認定</p> <p>2. 生物科の農業系大学等の農業関連進学率が全進学希望者の50%以上</p> <p>3. 環境科、食品科の農業系大学等の進学率が全進学希望者の30%以上</p> <p>4. 農業及び学科関連産業への就職率が全就職希望者の50%以上</p> <p>5. 資格取得の延べ合格者数300名以上（</p> <p>6. 高難易度の資格（アグリマイスター、農業技術検定、測量士補等）の合格者数の増加</p>	<p>1. SPH事業を継続実施し、昨年度と比べても概ね充実した結果となった。但し、例年に比べて大学等上級学校に進学する生徒が減ったことは次年度における懸案事項として改善していきたい</p> <p>2. 2年生の進路意識を喚起させることはできたが、それを進路実現につなげることはこれからの課題である。但し、より早い時期からの進路意識の高揚が欲しい。現在1年生の多岐の進路希望を踏まえて2年次のインターンシップ充実のためにも、今後インターンシップ先の新規開拓が必要になる。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>1. スーパー農林水産業士5名の認定</p> <p>2. 生物科農業関連学校進学率56%</p> <p>3. 環境科、食品科関連学校進学率31%</p> <p>4. 農業及び学科関連産業就職率44%</p> <p>5. 資格取得者延べ263名</p> <p>6. 高難易度資格（アグリマイスタープラチナ1名、ゴールド3名、シルバー4名、農業技術検定2級1名、測量士補1名、危険物取扱乙種4類2名）</p>
3 実施事業	
<p><b>【学校独自事業】</b></p> <p>1 農業の魅力づくり・発信事業</p> <p>専門知識の習得のために、乗馬指導について学ぶ、建設等現場見学会、舗装実習等を実施したり、造園技能検定2・3級資格取得、測量士補資格取得等の資格取得を推進し、専門人材の育成に努めた。</p>	

2 進路実現推進事業

インターンシップや測量技術研修会を通して希望する進路への意識を向上させたり、就農促進研修会への参加を促し農業後継者への足掛かりとした。また、県内大学、農業大学校と連携して農業系上級学校進学希望者への支援を行った。

4 総合所見（成果・評価）

令和2年度は、学校独自事業のうち「アンテナショップに出展」「食品科教職員研修」の2事業が実施できなかった。他の事業は継続して実施しており、成果も着実にしている。事業の充実には、予算・人的支援の充実が不可欠であるが、次年度以降も事業を継続し成果を上げたい。

※枚数任意